



特定非営利活動法人

アジア太平洋資料センター (PARC)

2013 年度 活動報告書

## もくじ

### 【全体的な活動報告】

2013 年度を振り返って .....	1
TPP を止める！ .....	2
「連帯経済」の国際ネットワーク.....	4
ブラック企業大賞 2013 .....	6
財政危機を乗り越えるために.....	7

### 【各部門の報告】

PARC 自由学校 .....	8
オーディオ・ビジュアル (AV) ....	11
雑誌『オルタ』 .....	13
情報発信 (ウェブ、SNS) .....	14
組 織 .....	15
活動カレンダー .....	16

## 2013 年度をふりかえって



2013年度はPARCにとって設立40周年の大きな節目の年でした。しかし、様々な意味で、手放しで祝えないムードの年だったと言えます。

まず、安倍政権の暴走に歯止めを利かすことができず、特定秘密保護法の成立、新・エネルギー基本計画での原発推進、ODA大綱の見直し、度重なる政府高官による靖国神社参拝、そして消費増税と、まさに「やりたい放題」の状況をつくらせてしまいました。不安や怒りを覚えると同時に、市民セクターの力不足を痛感させられた一年でした。

世界的に見てもフランス、ドイツ、オランダなどヨーロッパ各国での右派政党の躍進など、決して市民社会にとって明るい状況とは言えません。しかし、たとえば隣国の韓国では市民運動出身の朴元淳<sup>パクウォンスン</sup>氏がソウル市長に就任してから二年がたち、進歩的な政策の成果が見え始めました。たとえば、脱原発政策や市民の声を積極的に取り入れるなどの政策が進められています。また、台湾では原子力発電所の新設に反対し、学生をはじめとした多くの市民が必至の抵抗をつづけ、ついに2014年4月に政府は建設凍結を発表するに至りました。

少し前までは市民社会への弾圧が強かったこれら隣国で人びとが立ち上がり、政府に抵抗し、あるいは自分たちでオルタナティブを実現し始めている動きには私たちも勇気づけられます。

その間 PARC は、環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP) の締結を阻止するための運動のなかで、米国、ニュージーランドなど関係国の第一線で活動する NGO や研究者とつながり、交渉の問題点を一つ一つ共有し、お互いの国での運動状況・戦略を議論してきました。また、そこで得られた情報を活かして、国内のネットワークと連携し、デモや集会の実施、議員へのロビイングを繰り返すことで、反対の声が決して衰えないように抵抗してきました。

また、オルタナティブの実現を目指すために「連帯経済」を推進する運動も国内外のネットワークの中で展開してきました。これまでもアジアの活動家との交流から学んできましたが、2013年度はさらに幅を広げた国際ネットワークに加盟し、南米やヨーロッパ、アフリカの活動家と交流を深めました。国内でも「脱成長」や「ダウンシフト」をキーワードに既存の経済社会から一歩踏み出していった人びとの声を機関誌『オルタ』やビデオの取材、そして自由学校の講義で発信する取り組みを進めました。このようなオルタナティブを知る運動、実践者となつがる運動は多くの人に小さくても確かに存在する希望を伝えることができたのではないかと思います。

しかし、こうした活動が今、危機を迎えています。2012年度の大きな赤字を受けて、2013年度はこれまでで財政上もっとも厳しい年となりました。累積赤字は1800万円に上り、一時期は家賃の支払いやスタッフ給与の支払いが遅れたこともあったほどです。2013年末にはその状況を明らかにし、ご寄附・入会・継続のお願いのお手紙をお送りしました。その結果、100万円を超えるご寄附をいただき、経営努力もあいまって、倒産の事態はいったん回避することができました。ご協力いただいた皆様に改めていたします。

しかし、危機は去ったわけではありません。むしろ、これからいかに財政構造を健全化させていくかが問われています。財政危機の中で、しかも逆風が強く吹く社会状況の中で、活動を展開していくのは困難を伴いますが、学びあうことで希望を分かち合い、誰もが公正・平等に暮らせる社会を目指して活動を続けます。これからも是非ご支援・ご参加をお願いします。

アジア太平洋資料センター (PARC) 理事会







要因になっていますが、全国各地でねばり強い運動が続けられ、「聖域を守る。守られなければ撤退も辞さず」とした自民党の国会決議を守るよう求めています。

## 2. PARCの国際ネットワーク

交渉に関する情報や、各政府の動きが見えない中、PARCも参画する TPP に反対する国際ネットワークは大変大きな役割を果たしています。TPP 交渉参加国の NGO や医療団体、労働組合、環境団体など合計で 40 名ほどがこのネットワークを形成し、メンバーリストでの情報交換や電話会議などを日常的に行っています。交渉会合のたびにこれら NGO からも現地に行き、交渉官と直接話したり、NGO の記者会見を開く中で、交渉に関する情報を入手してくるのです。1990 年代に MAI (多国間投資協定) が頓挫した際、NGO が条文テキストを入手し、暴露したことが大きな要因になりました。極度の秘密主義の TPP 交渉に

### ★TPP に反対する国際ネットワークの主要団体★

- ・パブリック・シチズン (米国)
- ・ジェーン・ケルシーさん (オークランド大学教授 / ニュージーランド)
- ・第三世界ネットワーク (マレーシア)
- ・Knowledge Ecology International (KEI / 米国)
- ・Electronic Frontier Foundation (EFF / 米国)
- ・コンシューマー・インターナショナル (シンガポールから参加)
- ・FTA ウォッチ (タイ)
- ・マレーシアエイズ協会 (マレーシア)
- ・東南アジアたばこ規制連合 (マレーシア)
- ・正義のグローバリゼーションのためのペルーネットワーク (RedGE / ペルー)
- ・ラテンアメリカ・カリブ健康のための国際アクション (AISLAC)
- ・アジア太平洋資料センター (PARC / 日本)

対しても、国際的な市民社会の監視と批判、提言は不可欠です。

## 3. PARC 新作 DVD 「誰のための TPP? ! — 自由貿易のワナ」

こうした運動をさらに広げ、また多くの人びとの TPP への反対・懸念に答えるため、2013 年度にオーディオ・ヴィジュアル(AV)作品『誰のための TPP? — 自由貿易のワナ』をリリースしました (監督・土屋トカチ、監修・内田聖子)。この作品では、多くの人にとって「よくわからない」TPP について、わかりやすく解説するとともに、「大企業が利益を得るためのツール」としての TPP の危険を伝えるよう工夫しました。リリース後から大変に好評で、学習会の教材として利用いただいたり、上映会を開催いただいたりしてきました。



STOP TPP!! 官邸前アクションでマイクを持つ内田事務局長



# 「連帯経済」の国際ネットワーク

PARC では 2005 年に国際的な研究会を立ち上げて以降、経済のオルタナティブ（今のようでない、もう一つのあり方）として「連帯経済」の運動に関わってきました。2009 年には東京にて開催された「第二回アジア連帯経済フォーラム」の実行委員事務局を務め、以降も隔年で開催されるフォーラムに参加してきました。2013 年はマニラで 4 回目となるアジア連帯経済フォーラムが開催され、姉妹団体 パルシクのスタッフと共にアジアの活動家と交流を深めました。その他、勉強会やシンポジウムの開催など、ここ数年動きが停滞気味であった活動が息を吹き返した年になりました。

## 1. 「連帯経済」とは何か？ 東北復興支援における連帯経済の役割を考える公開勉強会 (9/28) の開催

マニラでの国際フォーラムを前にし、日本の中での連帯経済の取り組みを確認するために、とりわけ東北復興支援における「連帯経済」と言える取り組みについて学ぶ公開勉強会を開催しました。当日は連帯経済の理論的位置づけを PARC 理事/立教大学教授の藤井敦史氏に概説いただいたのちに、梶田恵臣氏（認定 NPO 法人 女子教育奨励会 (JKSK) 理事/事務局）、三本裕子氏（認定 NPO 法人 日本 NPO センター）、ロバーツ圭子氏（NPO 法人 パルシク）の三人に東北復興支援におけるそれぞれの取り組みをご紹介いただきました。

## 2. アジアと世界の社会的連帯経済運動の合流

2013 年 10 月 15 日～18 日にかけて 4 回目となる「アジア連帯経済フォーラム (AFSE)」が開催されました。この会合は 2009 年に PARC が実行委員事務局となって東京で開催された会合の続きとなる会合で、アジアの連帯経済活動家をつなげる機会として開催されました。一方で世界的な連帯経済のネ

ットワーク「社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク (RIPESS)」の世界会合も兼ねる大会となりました。

RIPESS は 1998 年から資本主義経済に抵抗するオルタナティブとして社会的連帯経済を推進するための調査・政策提言・トレーニングを実施してきたネットワークです。近年では国連社会開発研究所 (UNRISD) に新設された「連帯経済ワーキンググループ」に参画し、国連ミレニアム開発目標に次ぐ 2030 年までの開発目標の中で連帯経済を推進するための政策提言を行ってきました。

RIPESS はヨーロッパ、北米、南米、アフリカ、オセアニアのそれぞれの大陸の連帯経済運動が 1-2 名の理事を選出する形で運営されていましたが、アジアの代表は不在のままでした。今回の国際会議共同開催をきっかけに「アジア連帯経済フォーラム (AFSE)」の運営団体である「アジア連帯経済委員会 (ASEC)」の共同代表ベンジャミン・キニョーネス氏とデニソン・ジャヤスーリア氏が RIPESS においてアジアを代表する理事となりました。また、ASEC の幹事団体であった PARC は RIPESS の日本におけるコンタクト団体として登録され、この国際的なネットワークの一端を担うことになりました。

会議の中では、これまでの RIPESS の会合に出席してきた参加者と初めて出席するアジアの参加者と



マニラ会合の様子。アジアにおける連帯経済の事例紹介をした参加者



の間に「連帯経済」の定義・理解の差が大きかったため、お互いの認識、活動内容、理念などを共有し、グローバルに通じる「連帯経済のビジョン」を模索する4日間となりました。

詳細については雑誌『オルタ』2013年12月号でも紹介しています。

### 3. 国際シンポジウム：新自由主義への「抵抗」と暮らしの「再生」—「連帯経済」の実現に向けて、今なにが出来るのか？(3/23)の開催

PARC設立から40周年にあたる2013年度の活動を締めくくる国際シンポジウムを開催しました。海外からはベンジャミン・キニョーネス氏（フィリピン/ASEC代表・RIPESS理事）と金慈顕氏（韓国/幸福中心生協）をお招きし、キニョーネス氏には先のRIPESS世界会合での議論も含む、国際的な連帯経済運動の展開について、金氏には新自由主義政策が日本よりも急ピッチで進められた韓国において、人びとが協同組合を設立することで暮らしを取り戻しつつある事例について紹介いただきました。

韓国では2012年12月の協同組合基本法の施行以来、わずか一年程度の間で4000以上の協同組合の設立申請が提出されました。大半は小規模で運営されており、課題もまだ多いですが、疲弊する地域経済の担い手として大きな期待も寄せられています。

その後はパネルディスカッションとして、中野佳裕氏（PARC理事/国際基督教大学社会科学研究所助手・研究員）と鳴原敦子氏（環境平和研究会共同代表/国立仙台高専非常勤講師）にご登壇いただき、国内でどのようにしたら連帯経済を推進できるのか、

海外ゲストからのコメントやフロアからの発言も交えて92名の参加者とともに議論しました。

これまでの日本では経済成長と科学技術の発展は両輪であるかのように考えられてきました。しかし、福島第一原子力発電所の事故からわかるように、現代の科学技術の発展は逆に人びとの暮らしに大きなリスクをもたらしつつあります。一部の企業に大きな利益をもたらす一方で、そのリスクを人びとに押し付ける形で戦後日本社会は「発展」してきました。それを、新自由主義政策は加速させようとしています。東日本大震災からの復興でも、たとえば小規模ながらも共同経営・共同管理で維持してきた漁業をつぶし、大規模集約化、特区制度活用などの新自由主義的復興が提唱されています。

このような問題点を明らかにし、経済・社会の適正な規模、適正な科学技術の管理・利用の在り方について活発な意見交換が行われました。どれも決して容易に答えの出る問題ではありませんが、議論の中で少しずつ本来あるべき連帯的な社会の姿が見えてきました。

シンポジウムの詳しい内容については雑誌『オルタ』2014年5月号にて紹介しています。

なお、このシンポジウムは財団法人大竹財団の助成を受けて開催いたしました。



ベンジャミン・キニョーネス氏（左）と金慈顕氏（右）



2014年3月23日に開催されたシンポジウムの様子





# ブラック企業大賞 2013

2013年度の流行語に「ブラック企業」が上げられたこと象徴されるように、日本の労働環境は悪化の一途をたどっており、それが人びとの目に見える形で常態化しつつあります。しかも、その改善が大きく進展しているわけではなく、そのためにさらに人びとの関心を集める事態になっています。

そんな中 PARC では 2012 年度の活動として、PARC の呼びかけで「ブラック企業大賞実行委員会」を立ち上げ、「ブラック企業大賞」として 10 社をノミネート、内 4 社と 1 業種に大賞、市民賞を初めとした不名誉賞を送りました。2013 年度はこの取り組みに引き続き、労働組合、弁護士、ジャーナリスト、研究者、NGO・NPO で労働問題、過労死問題、多国籍企業研究などに取り組むメンバーで実行委員会を組織し、2013 年 7 月に 8 社をノミネート、内 4 社に不名誉賞を送りました。

今年度もブラック企業大賞はインターネットを中心に大きな反響がありました。

①ウェブサイトのアクセス数：

4,189,300 件 (6/30/2012~3/4/2014)

②投票数：

2012 年 20,071 票→2013 年 30,480 票

③ネットの世界で大反響を。「2ちゃんねる」などの掲示板、ウェブニュースなどでも話題に

④関連書籍・DVD を発行・リリース

『ブラック企業にご用心』(DVD、PARC 制作)

『マンガでわかるブラック企業』(合同出版)

『ブラック語録』(合同出版)

⑤相談(当事者、親などから)や事例の告発も来るようになりました

ブラック企業大賞の大きな特徴は、実例に基づき企業名を实名で挙げ、企業のもつ問題を社会に問うという点です。一方、実行委員会ではこれまでの成果を活かしつつ、いくつかの課題があるとらえて

います。2013 年度は社会全体としてブラック企業が問題となる中で、「ブラック企業対策弁護団」が結成されたり、国会での質問なども活発に行われたりしました。こうした動きとも呼応・協力しながら活動を広げていきたいと考えています。

【課題】

- ①ブラック企業を生み出す日本の労働環境の構造的問題を伝えること
- ②一人ひとりの労働者がつながり、立ち上がるきっかけを提供すること  
同時に、「つらかったら逃げてもいい。会社に殺されないで」とのメッセージを伝えること
- ③各事例のフォローアップや、継続的な支援体制を確立すること  
例) ワタミのご遺族による裁判提起など
- ④企業のあり方を変えていくための行動を提起すること  
労働組合をつくる・入る/消費者のボイコットキャンペーンなど/労働教育の必要性

## ★ブラック企業大賞 2013 各賞★

【大賞・一般投票賞】

ワタミフードサービス株式会社

【業界賞】

アパレル業界：株式会社クロスカンパニー

【教育的指導賞】

株式会社ベネッセコーポレーション

【特別賞】

国立大学法人東北大学

(その他ノミネート企業)

- ・株式会社サン・チャレンジ (ステーキのくいしんぼ)
- ・株式会社 王将フードサービス (餃子の王将)
- ・西濃運輸株式会社
- ・東急ハンズ株式会社

## ★ブラック企業とは

①労働法やその他の法令に抵触し、またはその可能性があるグレーゾーンな条件での労働を、意図的・恣意的に従業員に強いている企業、②パワーハラスメントなどの暴力的強制を常套手段として従業員に強いる体質を持つ企業や法人(学校法人、社会福祉法人、官公庁や公営企業、医療機関なども含む)、③また環境破壊や事業所の周辺環境や地元地域社会への配慮・貢献、消費者のニーズ・アフターケアに対する考慮が薄い企業なども含まれる場合がある。



## 財政危機を乗り越えるために

2013年12月に『PARCへのご入会・ご寄付のお願い』と題して、PARCが直面していた2013年度末の財政危機と過去数年間にわたる赤字構造をご説明し、さらなるご支援をお願いする趣旨のお手紙をお送りしました。こうした財政危機を招くに至った理事・事務局の責任を痛感しています。

その後、多くの方からご寄付・ご入会いただきまして、本当に感謝しております。お手紙を送付して以降、集まった寄付額は117万961円、入会者は16名となりました。

これに加えて、事務局スタッフは経費削減・収入増双方の観点から経営改善の努力を今まで以上に重ねてきました。その努力の成果もあり、過日お手紙を送付させていただいた時点で想定されていた状況までは悪化することなく新年度を迎えることが出来ました。

しかしながら、追加で200万円を借り入れることで何とか危機を一時的にしのいだに過ぎず、これからもさらなる経営改善努力が必要であることに変わりはありません。

そのために、今年度は以下の取り組みを進めていくことを理事会・事務局で決定しました。

### 1) 短期的資金繰りを解決するための借入

経営改善の努力が実を結ぶまでの間に運転資金がショートしてしまわないように2013年度までの借入金を返済する一方で、2014年度分の借入金として750万円を調達する(NPOバンク、理事の人脈、姉妹団体パルシックからなど) [担当理事・事務局：内田、大江、細川]

### 2) 事業収益向上

例年開催していなかった秋の自由学校の企画：開講、教材ビデオの追加制作、積極的な講演料・

原稿料収入の確保、会員勧誘の強化などで収益を250万円増やす[担当理事・事務局：内田、田中]

### 3) 経費削減

行政による廃校開放など、自由学校の開催地としてふさわしく、かつ教室賃料の低い物件をPARC事務局の引っ越し先として検討する。そのために東京23区の協働推進室の動向や中間支援組織からの情報収集に努める[担当事務局：田中]

### 4) 遂行状況確認のしくみ

これら資金調達・事業改善等の企画が滞りなく遂行されることを確認するために、代表理事・事務局担当者、外部有識者で定期的に(月に一回程度)会議を開催し、モニタリングしていく[担当事務局：田中]

この2014年度財政計画の作成に当たっては会員の方々からも様々なご提案をいただきました。改めて感謝いたします。

これらの取り組みを決定したところで、危機が消え去ったわけではなく、まさにこれからが正念場となります。緊急的な寄付・入会のお願いとしては2013年度末までを一つの区切りとさせていただいておりましたが、どちらも今でも歓迎しております。特に新入会員のご紹介はこれからも引き続きお願いします。

まだまだ不安の多い状況ではありますが理事・事務局ともにこの危機を皆さんと一緒に乗り越えて、新自由主義をはじめとしたあらゆる暴力に抵抗し、すべての人が平等・対等に暮らせる世の中を目指して活動していきたいと考えております。これからもご支援・ご協力よろしくお願い申し上げます。

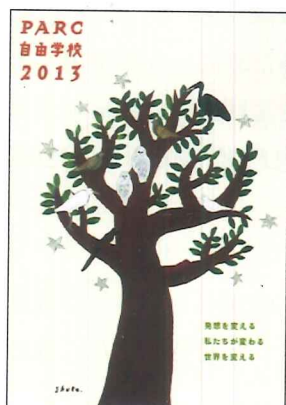


# PARC 自由学校

## — 出会い・つながり・活動が生まれる場として

### 1. 企画

2013年度は31クラスを企画し、そのうち28クラスが成立、受講生数は448名でした。成立した講座数、受講生数ともに過去最大になりました。募集を開始してしばらくは申込の数が伸び悩み、成立が危ぶまれるクラスが多くありましたが、会員の方々や過去の受講生の方々のご協力もあり、締め切り直前に最後の一押しをすることで、最終的にはもっとも受講生が集まった年となりました。



近年の傾向として、PARCの理念や主な活動が反映される「世界の学校」、「社会の学校」のクラスを受講生の獲得に苦戦しておりましたが、2013年度も不成立となったのは3クラス中2クラスが「世界の学校」のクラス、もう一つも

「社会の学校」のクラスでした。また、全12~14回、受講料30,000~40,000円という従来の自由学校講座のパッケージに対して受講生からは、「受講料が高い」、「回数が多い」といった声が多くあがっていました。2013年度は特にその点を意識して短く安価なクラスを用意しました。それが功を奏したとみられるクラスも見受けられた一方で、不成立となった3クラスはいずれも短めの8回、値段も2万円台の比較的安価な価格帯のクラスでした。その意味では単純に回数・価格の問題ではなく、「世界の学校」、「社会の学校」の企画力が問われていることが確認されました。

今後は回数・価格だけでなくPARCの活動と受講生の様々な要望もふまえて、世間の関心に直結する

企画づくりに取り組む必要があります。

逆に定員に達したクラスは「東京で農業」、「はじめてのオーガニック」、「まじめに10A(アンペア)」の3クラスでした。いずれも体験型の講座で「環境・暮らしの学校」に属するものです。こうしたクラスは例年人気がありますが、その傾向が特に強くなってきました。次年度以降はこのトレンドをふまえて環境や農をテーマにした体験型のクラスを増やしていきます。

### 2. 運営

クラスを受講生同士の交流を深めるために、例年のようにクラス後の交流会やメーリングリストの利用をしてきました。2013年度はそれに加えて、FacebookなどのSNSを実験的に利用したクラスもあり、交流の幅を開拓しました。クラスによっては受講生が自主的にFacebookを経由した交流を深めるものもあり、今後積極的に交流のツールとして検討していく必要性を確認しました。

このようなクラス内交流の工夫をしつつも、例年の課題となっている年度途中での出席率低下は今年



「生きることは表現すること」クラスの講師 中津川浩章さん



も徐々に目立ってきました。クラスによってばらつきはあるものの下半期出席率は 60%程度に落ちてしまったクラスもありました。近年はスタッフの入れ替わりも多く、経験・スキルやクラスごとの受講生の層のばらつきに大きく左右される傾向にあります。

一方で上記の現場体験型クラスは交流を進めやすく、たとえば現場体験を中心とした「まじめに 10A (アンペア)」クラスでは最後まで出席率が 90%以上を維持し続けました。このことから、座学を中心としたクラスでも現場体験を途中で数回盛り込むなど、スタッフの運営経験・能力や受講生の特性に依存することなくクラス内交流を可能とする運営を意識した企画の必要性を確認しました。

また、2013 年度は成立したクラスが従来の年度よりも多く、運営スタッフの負担は大きくなってしまいました。しかし、財政的には同数程度の講座を今後も維持していく必要があり、ベテラン受講生の方々や、会員の皆様、ボランティア・インターンなどの協力者と共に講座運営をしていく体制をつくり、現場スタッフの負担を軽減していくことが必要です。是非会員の皆様には講座の準備・片づけのサポートや初めての受講生の方へのフォローなど、ご負担にならない範囲でのご協力をお願いします。

毎年 3・4 月に開催している「自由学校まつり」はクラスが終了した 1 月頃から準備をはじめ、受講生が横断的に参加し、主体的に企画・実行する場とな



毎年人気の「東京で農業」クラスの様子

りました。今年は外の会場ではなく、PARC の教室を利用した「まつり」となりましたが、多様な装飾によっていつもの PARC が想像できないような非日常的な場が作られ、大きく盛り上がりました。

### 3. 宣伝・広報

2012 年度講座の広報は、例年同様に全クラスの詳細を掲載したパンフレットと、「環境・暮らしの学校」が中心のリーフレットを、ボランティアや受講生の協力を得ながら店舗やイベント会場、講演会などで配布・設置を行ないました。またイベントや講演会の内容に応じてクラス別のチラシを作成して配布しました。インターネット上の掲示板、ツイッターでの宣伝も行ないました。

2012 年度から新たに始めた取り組みである Facebook も引き続き利用し、インターネット上での口コミの力を活用しました。しかしながら、現状は思いつくままに使用しているにとどまっており、有効に利用していくための戦略づくりが引き続き課題となっています。ネット上での広報だけでなく、雑誌、マスメディアへの広報も十分にできていないので、ターゲットを絞って効果的に宣伝していく必要があります。これは各部門に共通した課題でもあり、次年度以降は PARC 全体の広報を担当するスタッフを置くことも検討しています

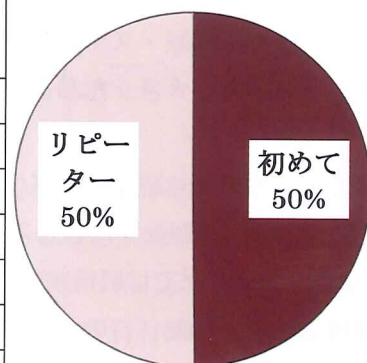


 いいね! 自由学校の Facebook ページ  
<http://www.facebook.com/parcfs>

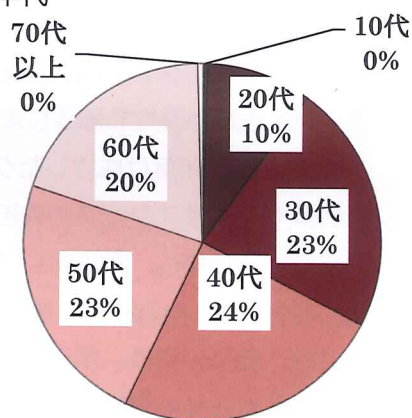
### ◆2013 年度自由学校受講生分析

カテゴリ	No.	クラス名	申込	成立・不成立
言葉の学校	1	キムの英語で社会を変えよう!	9	○
	2	ジェンスの英語で発信!	11	○
	3	世界のニュース	10	○
	4	武藤一羊の英文精読	12	○
	5	はじめてのケチュア語	10	○
	6	きほんのビルマ語	13	○
世界の学校	7	いのちを支配する多国籍企業に NO!	14	○
	8	お金をソーシャルに!	17	○
	9	ビルマとミャンマーのあいだ	8	×
	10	アフリカとわたしたち	16	○
	11	領土・国家・ナショナリズム	12	○
	12	デモクラシーを求め、反乱する都市	4	×
社会の学校	13	シェアするライフスタイル	19	○
	14	現代社会を知るための10のキーワード	19	○
	15	戦後史の死角	19	○
	16	文系アタマで「科学」を考える	11	○
	17	放射能汚染時代を生きる	5	×
連続ゼミ	18	アベノミクスの仮面を剥ぐ! 一超初歩からの3大経済学	13	○
	19	アクティビストのためのソーシャルメディア	11	○
	20	映像を使って授業をつくろう	9	○
環境・暮らしの学校	21	本気で縄文人!	17	○
	22	日本酒で乾杯!	14	○
	23	コミュニティ・カフェをつくろう!	20	○
	24	まじめに10A(アンペア)	22	○
	25	歩いて知ろう ニッポンの胃袋の裏側	19	○
畑の学校	26	東京で農業!	42	○
	27	はじめてのオーガニック	33	○
表現の学校	28	抵抗の音楽	18	○
	29	生きることは表現すること	17	○
昼の学校	A	やってみよう コーヒーアート	8	○
	B	コミュニティ・カフェをつくろう!	13	○
ツアー	復興支援ツアー 出会い、学び、参加する旅 石巻市北上町		2	×
特別講座	活動家一丁上がり		27	○
申込合計			494	

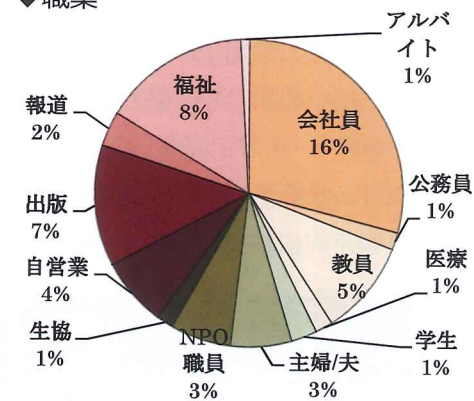
#### ◆受講履歴



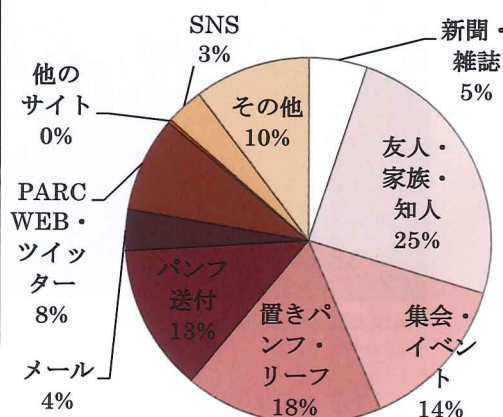
#### ◆年代



#### ◆職業



#### ◆自由学校を知ったきっかけ





## オーディオ・ビジュアル (AV)

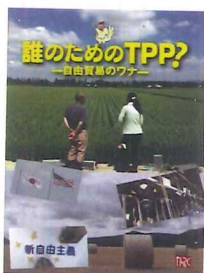
—学校、地域、職場で、さらに幅広い「学びの場」で活用いただくために

### 1 全体を振り返って

2013 年度、オーディオ・ビジュアル (AV) 部門は、『誰のための TPP?—自由貿易のワナ』と『検証! オリンピック—華やかな舞台の裏で』の2つのオリジナル作品を制作しました。オリジナル作品を年間2本制作するという目標を達成することができましたが、昨年度に引き続き、翻訳作品制作と旧作品の DVD 化は進められず、課題として残っています。

### 2 2013 年度に制作した作品とその内容

#### 誰のための TPP?—自由貿易のワナ



DVD/37分/本体5,000円+税/監修 内田聖子 / 監督 土屋トカチ  
環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP) の疑問点を大学生が追っていくというストーリーを軸に、TPP の危険性をわかりやすく伝える作品です。北海道の農家、酪農家、養鶏家から、経済学、農学、

労働運動、消費者運動、国際 NGO の専門家へのインタビューなど幅広い分野について取材しています。また TPP を個別の貿易協定の問題として捉えるのではなく、「新自由主義」のこれまでの発展の経緯の中に TPP を位置づける作品としました。作品監督は、2012 年度の作品『ブラック企業にご用心!』に引き続き土屋トカチさんにお願しました。

#### 検証! オリンピック—華やかな舞台の裏で

検証! オリンピック  
~華やかな舞台の裏で~



DVD/25分/本体8,000円+税/監修 谷口源太郎/制作 OurPlanet-TV  
2020 年に開催が予定されている東京オリンピックを中心に、オリンピックの商業性や政治性、立ち退きや環境破壊の問題を検証する作品です。また、オリンピックを通して浮かび上がるスポーツ本来

の意味・意義を問いかけています。近代オリンピックの五輪憲章を見てみると、巨額の放映権料や巨大企業の独占的なスポンサー制度、時の政権に利用さ

れる現代オリンピックの内包する矛盾が際立ちます。監修者としてスポーツジャーナリストの谷口源太郎さんに協力いただきました。制作は独立オルタナティブメディアである OurPlanet-TV に依頼しました。

### 3 販売・宣伝

2013 年度にもっとも多く売り上げた作品は、10月にリリースした『誰のための TPP?—自由貿易のワナ』でした。単品の総売上本数は 366 本となり、発売から一年未満の販売数では歴代のどの作品よりも多くなりました。また 2012 年度末にリリースした『ブラック企業にご用心!』も大変好評であり、リリース直後だけでなく、継続的に売り上げており、総売り上げ本数は 360 本となりました。歴代 2 位の売り上げになりました。

これら 2 本のビデオに共通するのは PARC がこれまでに活動を展開してきたネットワークを活かして制作・広報した作品だということです。どちらについても、そのテーマを積極的に扱う運動母体やメディア担当者とのネットワークがあり、何よりも PARC に活動実績があるテーマであったことが売り上げにつながってきたと考えられます。

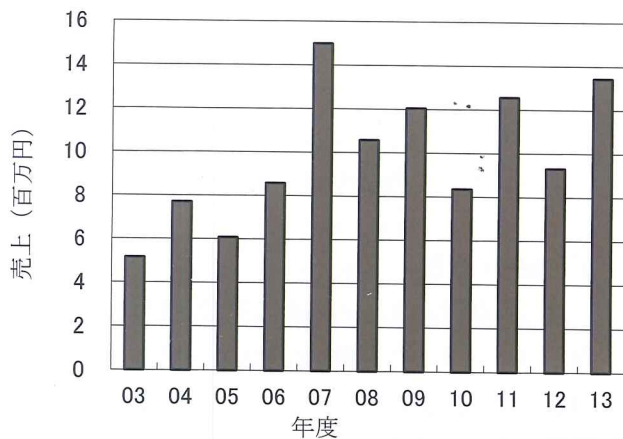
また、上記のように関連する運動団体や個人がこれらビデオ作品を利用して上映会を開催しやすいように「上映貸出」の制度を開始しました。現在のところ、「上映貸出」は下半期の半年のあいだに 21 回になっておりますが、今後は DVD の販売と合わせて自主上映会の開催も積極的に呼びかけていき、回数を増やしていきたいと考えております。

さらに、2013 年度は DVD の販路を拡大するために一般図書館、私立高校、各種協同組合の名簿を拡大し広報先を 2000 件以上増やしました。これ自体は、まだすぐには売り上げにはつながっていませんが広報先を拡大したことで今後の作品の基礎売り上げを増やすことにつながることを期待します。



◆ビデオ売上分析

◆ビデオ部門売上推移(2003～2013年度)



◆注文者属性

	総注文	書店経由
1 大学教員	106	38
2 大学図書館・研究室	112	65
3 高校教員	18	1
4 高校図書館	7	3
5 一般図書館	11	8
6 個人	320	0
7 企業	20	0
8 行政	11	1
9 大学生協	19	1
10 NPO、市民団体、組合	56	1
11 中学教員	4	0
12 中学図書館	0	0
13 小学校教員	1	0
14 小学校図書館	0	0
15 不明教員	2	0
16 報道・プロダクション	2	0
17 研究者・学生	2	0
18 生協	22	3
19 協会・宗教関係	19	0
20 財団・社団法人	6	0
21 医療関係	37	37
22 政党、政治家	97	38
23 不明	106	38
総計	872	196

◆2013年度 売上ランキング

単品ベスト5

	作品名(制作年)	販売本数
1	誰のための TPP(2013)	366
2	ブラック企業にご用心(2013)	360
3	有機農業で生きる(2012)	48
4	近くて遠い遠くて近い貧困問題(2010)	40
5	お米が食べられなくなる日(2012)	36

セットベスト5

	セット名	販売セット数
1	日本の現実を見つめ直す	19
2	農業と暮らしの現実と未来	12
3	新作 DVD セット	6
4	女性の視点から見る開発	5
5	農業の現実と未来	3

◆個別注文数

	計	直販・ 一般価格	直販・ 図書館価格	書店・ 一般価格	書店・ 図書館価格	会員 一般価格	会員 図書館価格
単品	1206	696	141	80	272	10	2
セット	61	27	7	1	23	3	0
計	1267	723	148	81	295	13	2
		一般計	891	書店計	293	会員計	15

## 雑誌『オルタ』

### 会員同士をつなぎ、PARCの活動が見える雑誌へとリニューアル

2013年度は新しくなった月刊『オルタ』のあり方を模索する一年でした。昨年度会員の皆さまから頂いたご意見が十分に反映されてきたのか、皆様のご意見をこれからも伺いながらよりよい『オルタ』を目指していきたいと思えます。

#### 1. リニューアル

2008年7-8月号以降、『オルタ』は隔月刊雑誌として発行してきましたが、2013年5月号より月刊誌としてリニューアルしました。ページ数は大幅に削減しましたが、月刊誌という発行頻度を活かしたタイムリーな記事、PARCの他部門の活動が見えてくるような記事を心がけました。

また、誌面の中では連載の割合を増やし、比較的容易に編集できる誌面づくりに努めるとともに、他の部門と連携した連載を設けるなど、主担当スタッフの業務軽減と合わせて他部門スタッフの編集トレーニングを兼ねた誌面作りを行いました。

#### 2. 制作・販売

リニューアル後はボリュームダウンに伴って値下げを実施したために売り上げは大幅に低下しました。本来はスタッフの負担を軽減した分、余裕のできた担当スタッフが『オルタ』だけでなくビデオ、自由学校などと合わせて広報を強化する意図もあって制作面での負担軽減を実現しましたが、フルタイムスタッフを充てることができず、『オルタ』の販売努力という面では結果として例年を大きく下回る体制になってしまいました。

#### 3. 2013年度の特集

- 村井吉敬さんのアジアへの視点
- 徹底解剖！秘密とウソのTPP
- TICADは誰のため？
- 問題だらけの原発輸出

- ソーシャル・メディアで運動はどう変わる！？
- ブラック企業大賞 2013
- ここがマズイ！ベトナムへの原発輸出
- 資本主義経済への「抵抗」と暮らしの「再生」
- 福島の漁業は今
- 秘密保護法の裏で可決された悪法たち
- 超国家企業
- 検証！オリンピック—華やかな舞台の裏で

#### <時宜にかなった特集企画>

月刊化したことで、福島第一原発からの汚染水の漁業への影響、秘密保護法の裏で成立した悪法など、その時々タイムリーな話題を取り上げ、紹介することが可能になりました。今後も特集、オルタ考、World Infoなどのページはタイムリーな話題の提供に努める予定です。

#### <PARCの活動内容を誌面に色濃く反映>

会員・ボランティアの紹介ページ、PARCビデオ作品の紹介ページ、自由学校の講座紹介など、誌面後半の連載にてPARCの活動紹介につながる記事を大きく取り扱いました。また、特集についてもPARCが主催・共催した勉強会や自由学校での講演録を掲載するなど、PARCの活動に直結した特集を企画してきました。今後はもっと会員の方への執筆・寄稿依頼を増やすなど、会員の皆様と作り上げる『オルタ』にしていきます。

しかし、以前の『オルタ』と比較して、読者の関心事に十分に近づく誌面になっているのか、いまだ評価に迷っています。これからも会員・購読者の皆さまからご意見をうかがいながらよりよくしていく所存です。皆さまの忌憚なきご意見をお願いします。





## ソーシャル・メディア

毎年 SNS の普及率、重要性は増してきており、今年は特に Twitter を見て「イベントを知った」、「PARC を知った」、「入会しようと思った」などのコメントをいただく機会が増えました。

一方で、メーリングリストでの広報は徐々に効果を失いつつもあるようにさえ見えます。今後は従来のメーリングリストやダイレクトメールを用いた広報に加えて SNS を戦略的に利用した広報を展開することが必要性です。

### ■ Twitter

2013 年度末時点でフォロワー数は 4521 名になりました。昨年度に引き続き、TPP に関する速報ツイートやイベント・デモの内容の即時ツイートなどの独自コンテンツを中心にリツイート（転送）される傾向にあり、逆に独自ツイートがあまりない時期には目に見えてフォロワー数が減少するなど、運用上の課題も見えてきました。

### ■ フェイスブック

フェイスブックは主に「自由学校のページ」を利用していますが、広報の期間を終え、講座が始まるとほとんど更新がされないページになってしまいました。一方で、一部のクラスにおいて、クラス受講生専用ページを作成すると、受講生間のやり取りが活発に行われるようになり、重要な交流ツールとなりました。このように特定の用途に絞って使用していくノウハウは蓄積されつつあるのですが、総合的な戦略が立てられまだまだ工夫の余地があります。



SNS で PARC の活動をフォロー!

#### ★【ツイッターアカウント】

★PARC⇒ @parc-jp

★PARC 自由学校⇒@PARCFS

★【Facebook】★PARC 自由学校⇒

<http://www.facebook.com/parcfs>



## 組織

### ■会員

2014年3月31日現在、450名の会員のみなさまがPARCの活動を支えてくださっています。

新規の入会者は46名（2014年1月現在）、退会者66名（2014年1月現在）です。

TPPへの取組の一環で行った地方講演会や上映会などを通して会員になってくださる方も増えました。またメディアへの露出（雑誌、新聞、テレビ・ラジオ出演、IWJ出演など）でPARCを知っていただく機会も増え、幅広い層の方々の入会のきっかけとなりました。

今年度よりwebページにてクレジット決済可能な入会システムも作成し、より気軽にご入会いただけるような環境も整いつつありますが、まだ告知が行き届いていないことが課題です。

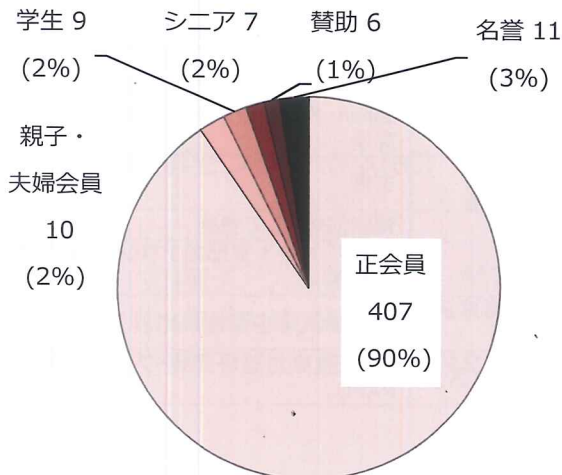
昨年末にお知らせしたPARC財政へのご支援へのお願いを受け、17人の方に新たに会員になっていただきました。長らく自由学校に通ってくださる受講生の方でこの機会に会員になってくださったかたも数名いらっしゃいました。

### ■ボランティア・インターン

PARCの活動は大勢のボランティアの方々のご協力によって支えられています。2013年度末時点でボランティア登録者は160名を超えています。

定期的に行う『オルタ』やAVなどの広報チラシ、

#### ◆会員種別

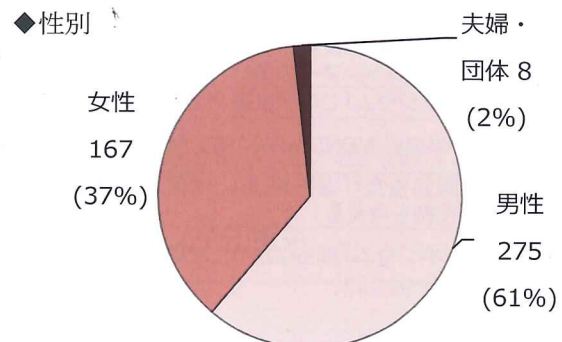
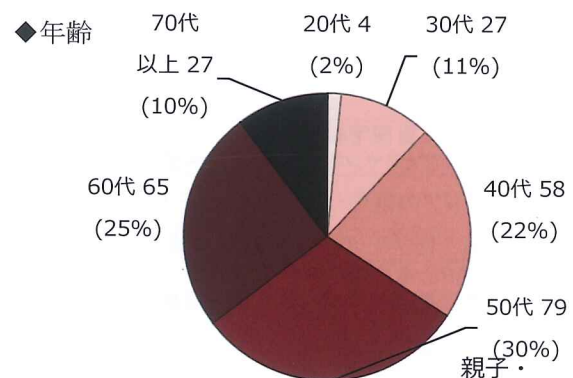


自由学校のパンフレットの発送作業や、イベント・集会の運営、翻訳、資料整理、WEB作成、インターネットへの書込み、データ打込、広報物の制作、ファイリング、データベースづくりなどその内容は様々です。

毎月定期的に行っている発送作業は、数時間から参加ができるため、学生からご年配の方まで幅広く、気軽に参加していただいています。参加する経緯としては、インターネットのボランティア関連掲示板や、twitterを見て参加される方が多く、ボランティア参加が初めて、PARCの名前を聞くのも初めて、という方がほとんどです。そこで、2013年度は休憩時間にPARCのビデオ作品をみていただくなど、PARCの活動内容をお伝えする時間を設けました。ボランティアをきっかけに自由学校にも参加していただけるよう、講座の単発受講が可能になる「越境チケット」も随時、お渡しするよう心がけました。

継続してボランティアに来てくださる方もおり、PARCの過去40年分の所蔵資料のデジタルデータ化に取り組んでいただいております。

ボランティアに関心があるが、なかなかきっかけがつかめない、といった方々も気軽にご参加いただけるよう、今後もより一層ボランティアをしやすい環境作りや情報発信に取り組んでいきます。



(活動カレンダー)

	《講演会・イベント》	主催・共催
4/7	DVD 新作リリース記念上映&シンポジウム ブラック企業にご用心！～就活・転職の落とし穴～	主催
4/8	岡村淳監督上映会&トークライブ「アマゾン VS 縄文」	主催
4/20-21	アースディ東京	出展
4/20	「越田清和さん ありがとう！」の集い	「越田清和さん ありがとう！」の集い・東京 実行委員会として参画
4/28	三春花見まつり～滝桜の下で三たびの集いを！～	三春滝桜花見実行委委員として参画
5/15	緊急勉強会「TPP ペルー交渉へ参加！ & 米国視察最新報告 交渉の実態と行方は？ 米国議会は日本の参加をどう見ている？ グローバルな反対運動とつながり、TPP を止めよう！」	主催
5/25	TPP 参加をとめる！ 5・25 大集会	STOP TPP！ 市民アクション実行委員として参画
5/29	TICAD V 直前 国際シンポジウム 今アフリカ農村で何が起きているのか？ 日本・ブラジル・モザンビーク 三角協力による熱帯サバンナ農業開発(プロサバンナ)を考える	賛同団体として参画
6/8	セミナー「ボルネオの森はいま ～熱帯林を支えるわたしたちの暮らし～」	共催：メコン・ウォッチ・国際環境 NGO FoE Japan・地球・人間環境フォーラムサラワクキャンペーン委員会・熱帯林行動ネットワーク (JATAN)・レインフォレスト・アクション・ネットワーク日本代表部 協力団体として参加
6/11	院内勉強会「ジャパン・アズ・ナンバーワン・バイヤー！」	共催：メコン・ウォッチ・国際環境 NGO FoE Japan・地球・人間環境フォーラムサラワクキャンペーン委員会・熱帯林行動ネットワーク (JATAN)・レインフォレスト・アクション・ネットワーク日本代表部 協力団体として参加
6/11	浸透性農薬に関する IUCN 東京シンポジウム 2013 浸透性農薬によるミツバチ、水系、稲作への影響	協力団体として参画
6/23	総会記念シンポジウム「徹底検証！ 秘密とウソの TPP」	主催
7/5	第 2 回ブラック企業大賞プレイベント「2013 年度ノミネート企業を徹底的に解剖する！」	主催
7/29	PARC 自由学校特別企画 放射能汚染時代を生きる—福島「いま」とわたしたちの選択 第 1 回	主催
7/7	STOP TPP！！ 7・7 参院選直前大行動！	STOP TPP！ 官邸前アクション実行委員として参画
7/9	PARC 自由学校特別企画 ビルマとミャンマーのあいだ—変わる社会とどう向き合うか 第 1 回	主催
7/23	日本政府 TPP 交渉に参加 TPP 交渉参加大抗議宣伝とリレートーク	共同主催：国民の食糧と健康を守る運動全国連絡会(全国食健連) STOP TPP!! 官邸前アクション実行委員会として参画
7/23	PARC 自由学校特別企画 ビルマとミャンマーのあいだ—変わる社会とどう向き合うか 第 2 回	主催
8/7	アジアの農民・人びとの連帯を！ —エステラ・ベヌニアさんを囲んで—	共催：PARC・アジア・コミュニティ・センター21 (ACG21)
8/11	第 2 回ブラック企業大賞授賞式	ブラック企業大賞企画委員会として参画
8/28	PARC 自由学校特別企画 放射能汚染時代を生きる—福島「いま」とわたしたちの選択 第 2 回	主催
9/6	シンポジウム 「ここがマズイ、原発輸出—ベトナム編」	共催：APLA・アーユス仏教国際協力ネットワーク・PARC・開発教育協会・国際環境 NGO FoE Japan・メコン・ウォッチ・早稲田大学アジア研究所
9/10	PARC 自由学校特別企画 ビルマとミャンマーのあいだ—変わる社会とどう向き合うか 第 3 回	主催
9/14	シンポジウム「このまま進めて大丈夫なの？ TPP 交渉」	賛同団体として参画
9/17	OCCUPY MONSANTO モンサント社前抗議行動	STOP TPP！ 官邸前アクション実行委員として参画
9/28	公開勉強会「「連帯経済」とは何か？ 東北復興支援における連帯経済の役割を考える」	連帯経済日本委員会として参画
9/29	シンポジウム「知らなかったではすまされない TPP と国家戦略特区」	共催：社会思想研究会・プロジェクト 99%・PARC



10/5	『ショック・ドクトリン』上映会+トークライブ	共催:大竹財団・PARC
10/15	PARC 自由学校特別企画 ビルマとミャンマーのあいだー変わる社会とどう向き合うか 第4回	主催
10/20	土と平和の祭典	出展
10/21	PARC 自由学校特別企画 放射能汚染時代を生きるー福島「いま」とわたしたちの選択 第3回	主催
10/25	PARC 新作 DVD 完成記念上映会&トークライブ 誰のための TPP?ー自由貿易のワナ	主催
11/2-3	福島・三春の“収穫祭” 2013	三春滝桜花見実行委員会として参画
11/23-24	国際有機農業映画祭 2012	実行委員会に参加
12/8	「これでいいのか?! TPP 12.8 大行動」	賛同団体として参画
12/9	PARC 大忘年会	主催
3/8	公開研究会:協同の未来を紡ぐ	協力団体として参画
3/17	お蔵フェスタ	出展
3/23	PARC 創立 40 周年記念シンポジウム&レセプション 新自由主義への「抵抗」と暮らしの「再生」 「連帯経済」の実現に向けて、今なにが出来るのか?	主催
3/30	「もうやめよう! TPP交渉3. 30大行動」	STOP TPP! 市民アクション実行委員会として参画
毎月第一 火曜日開 催	STOP TPP!! 官邸前アクション	STOP TPP!! 官邸前アクション実行委員会として参画

賛同・呼びかけ		
5 月	日印両首相に対する 「日印原子力協定に向けた交渉の停止を求める要望書」	呼びかけ:原水禁、原子力資料情報室、ノーニュークス・アジアフォーラム・ジャパン 団体賛同
6 月	TPP(環太平洋パートナーシップ協定)交渉に関する 市民参加の説明会開催ならびにパブリック・コメント実施の要請	呼びかけ団体として参画
9 月	日伯原子力協定に反対する団体署名	団体署名
10 月	秘密保護法を制定しないことを求める国際協力 NGO の要請書	団体賛同
11 月	トルコへの原発輸出に道開く原子力協定に反対を!	団体署名
11 月	Do not Dilute G 33 Proposal: Address Imbalance in Global Agricultural Subsidies Rules, Support Public Stockholding for Guaranteeing Livelihoods and Food Consumption of the Poor at Bali WTO Ministerial	団体署名
12 月	私たち環境 NPO は「特定秘密保護法」の施行凍結、廃止を求めます。 私たちはあきらめない	団体署名
12 月	特定秘密保護法案の強行採決、法案成立に抗議する	団体署名
1 月	インドネシア・パタン石炭火力発電事業に関する国際協力銀行(JBIC)への要請書	団体署名

## アジア太平洋資料センター (PARC)

- 代表理事 大江正章/細川弘明
- 理 事 内田聖子/大塚照代/佐久間智子/中野佳裕/藤井敦史/松本 悟/宮内泰介/湯浅 誠
- 監 事 清水研/内藤眞弓
- 事 務 局 内田聖子/大和田清香/高橋真理/高田裕道/田中 滋/安川直祐

(2014年3月31日現在)



特定非営利活動法人

Pacific Asia Resource Center

アジア太平洋資料センター

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F

TEL.03-5209-3455 FAX.03-5209-3453

<http://www.parc-jp.org/> E-mail [office@parc-jp.org](mailto:office@parc-jp.org)